

令和5年度第3回 独立行政法人労働者健康安全機構契約監視委員会〔概要〕

開催日時	令和5年12月20日 11:40～13:10
委員	山本 勲（慶應義塾大学商学部教授） 田極 春美（三菱UFJリサーチ&コンサルティング（株）主任研究員） 竹内 啓博（公認会計士） 遠藤 和夫（独立行政法人労働者健康安全機構監事） 藤川 裕紀子（独立行政法人労働者健康安全機構監事（非常勤））
審議事項	1. 第2回契約監視委員会継続審議案件及び令和5年7月から令和5年9月までに締結した契約の点検・見直しについて
議事概要	<p>1. 契約の点検・見直しについて</p> <p>【主な指摘事項】</p> <p>○随意契約</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「心理士派遣」について、当該職員が不在となる情報を事前に把握していたことから、本来であれば、一般競争入札を検討すべきだったと思料される。今後の調達に当たっては、関係部署間で十分な情報共有を図り、調達期間を考慮した上で、人材派遣の調達を計画的に行うことが求められる。 <p>○一者応札・応募</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「手術・リハ・災害棟（仮称）新築工事設計業務」に関し、公募型プロポーザル方式の選定及び手続において、規程やマニュアル等に照らして検討を行った結果、特に問題点は認められなかった。しかし、今後の調達に当たっては、技術水準を担保しながら実績要件をどこまで緩和できるのか十分な検討を行った上で、参加資格や評価基準の設定を行うことが求められる。 ・「令和5年度化学物質支援事業」に関し、今後の調達に当たっては、調達内容を合理的に分割することにより、競争性を確保することが可能か否かを検討することが求められる。 ・「内視鏡手術支援ロボットシステム」に関し、地域の特殊事情を鑑みれば止むを得ない部分はあるものの、他の労災病院においても納入実績があることから、実績データに係る収集や活用方法について工夫の余地があると思料される。今後の調達に当たっては、機構本部と連絡を図った上で他施設の納入実績を十分に把握し、積極的な声掛け等による競争性の確保が求められる。 <p>【追記】</p> <p>契約監視委員会の開催回数は、当分の間、年3回とすることが了承された。</p>